

## 1. 事業の必要性・概要

汚水処理施設の長期間の停止は生活環境の保全及び公衆衛生上避けなければならない事象である。個別分散型の生活排水処理施設で地震に強い特性を持つ浄化槽の整備促進や、早期復旧方法の確立は重要な課題である。

東日本大震災の被災地においては、地理情報システム（GIS）を活用した浄化槽台帳が被災浄化槽の効率的な復旧に役立ったという事例もあり、平時より、浄化槽の設置や維持管理の状況を把握し、管理体制を強化することは、国土の強靱化に資する重要なソフト対策である。

また、管理体制の強化にあたっては、検査の効率化、検査を活かした指導監督体制の強化、検査機関と維持管理業者の連携強化等により、受検者にとってより意義を理解しやすい、効果的な検査体制を構築することが求められている。このため、本事業では、浄化槽台帳システムの新たな利活用に関する調査検討等を行い、浄化槽台帳システムによる浄化槽の管理基盤の強化を図るとともに、より効率的な法定検査体制の構築手法の検討を行う。

## 2. 事業計画（業務内容）

- ① 浄化槽台帳システムの新たな利活用に関する調査検討
- ② より効果的な法定検査体制の構築手法の検討
- ③ 浄化槽台帳システムの災害対応力強化に関するモデル事業

## 3. 施策の効果

浄化槽台帳システムによる浄化槽の管理基盤の強化を図ることにより、浄化槽システム全体での更なる強靱化及び信頼性の向上を目指す。

# 浄化槽情報基盤強化推進事業費

## ～台帳システム整備による浄化槽の管理基盤の強化～

平成27年度予算(案)額:16百万円 (平成26年度予算額:16百万円) 支出予定先:民間団体等

### 課題

- ・浄化槽の災害対応及び平時の維持管理の信頼性を確保するため、管理体制の強化が必要
- ・人口減少等の社会情勢を踏まえ、個別分散型処理で災害に強い特性を持つ浄化槽の更なる整備が必要

### GISを活用した台帳システム整備の効果

災害時

- ・被害状況を迅速かつ正確に把握できる
- ・浄化槽の被災状況を視覚情報として共有できる  
⇒被災浄化槽の早期復旧等に貢献する

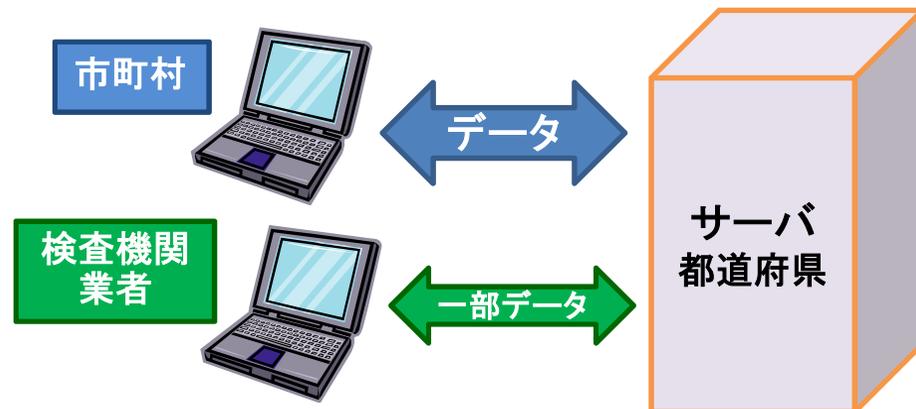
平常時

- ・設置状況を視覚的かつ正確に把握できる  
⇒維持管理体制の適正化が図られる  
⇒浄化槽の普及促進や単独転換施策に役立つ

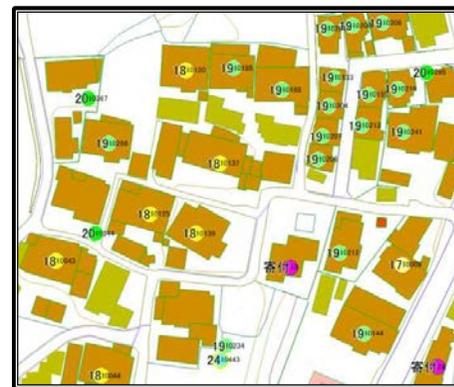
### <事業内容>

- ① 浄化槽台帳システムの整備促進手法の普及活動
- ② より効果的な法定検査体制の構築手法の検討
- ③ 浄化槽の情報基盤強化に関するモデル事業

### 浄化槽台帳システムの構築イメージ



### GISによる浄化槽の設置状況の可視化



全国における浄化槽台帳のシステム化の推進等、浄化槽の管理基盤の強化を図ることにより、災害への対応力を強化し、下水道や集落排水事業とも連携し、汚水処理全体での更なる強靱化及び信頼性の向上を目指す